

低学年の話し合う力を高めるために

～第2学年国語「あったらいいな、こんなもの」の
実践を通して～



柏崎市立大洲小学校 教諭 村山 修

1 はじめに

国語科「話すこと・聞くこと」の単元の学習を展開する上で、私が重要視しているポイントは、以下の4点である。

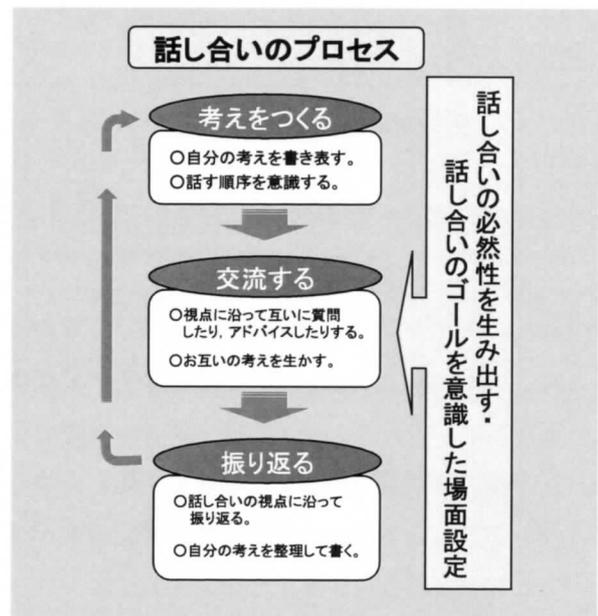
- (1) 自己の考えをしっかりとつための書く活動
- (2) 話し合う場面での意欲・関心を高める場面設定
- (3) 話し合うための視点の明確化
- (4) 自己の考えの変容を自覚するための振り返り

右は、「話すこと・聞くこと」の単元で重視しているポイントを盛り込んだ話し合いのプロセスを図に表したものである。「考えをつくる」「交流する」「振り返る」といったプロセスを大切にしながら、単元を展開する。

低学年の場合、話し合いを活性化させるために、交流する場面での教師の働きかけが重要である。具体的には、以下のようなポイントに沿って指導することが有効であると考えます。

～低学年における話し合い指導のポイント～

- 子どもたちが興味・関心を高めるような話し合いの場を設定する。
- 話し合う視点や話し方のモデルを具体的に示す。
- 教師が質問や応答をつなげるコーディネートをする。(考えの価値付けを行う)



2 授業の実際

第2学年「あったらいいな、こんなもの」は、「あったらいいな」というものについて、空想を楽しむ中で、「話すこと・聞くこと」の基本的な態度や能力を育てることをねらった単元である。

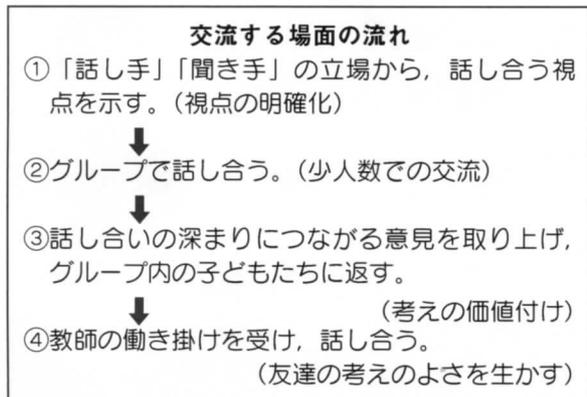
前述のポイントに沿って、「交流する」場面を中心に実践を紹介する。

- (1) 興味・関心を高める話し合いの場を設定する
単元の終末段階において、「あったらいいな」というものについて構想したものの発表会の場を設定した。その際、「学級で役立つものランキン

グを決めよう！」と投げ掛けた。より生活に密着したテーマを投げ掛けたことで、積極的に互いの発想を聞き合う場面が見られた。

(2) 子どもの考えを価値付け、広げる

「交流する」場面においては、以下のような流れで学習を展開した。



互いに発明したものを紹介し合い、質問したり、アドバイスしたりする場面では、視点をしっかりもって話し合いができるように、スライドで質問の仕方やアドバイスの仕方の視点を示した。話すことが苦手な子どもにとって、互いに質問したりアドバイスしたりするモデルとなるようにした。

話し合い活動と具体的な教師の支援は次のようになる。

T：お互いに発明したものを紹介し合い、よりよい発明になるように、質問したり、アドバイスし合ったりしましょう。質問やアドバイスがうまくできないという人は、スライドを参考にしましょう。

(流れ① 視点の明確化)

C：わたしは、「ランドセルキレイマシーン」を発明しました。大きさは・・・略・・・。

C：どうしてランドセルにしたのですか？

C：ランドセルは毎日使うものだし、6年生になっても使うからです。

C：だったら、手さげぶくろなどもずっと使うものだから、きれいにしてくれるともっといいと思います。

C：あっ、それいいですね。

T：〇〇さんは、「ランドセルだけ」という質問につなげて、「他の物にも目を向けた」よいアドバイスができましたね。

(流れ③ 考えの価値付け)

・・・中略・・・

(「わすれものハコブン」の紹介を受けて)

C：わすれものした時だけ、出てきてくれるのですか？

C：わたしはわすれものが多いのでそうしました。

C：それなら、わすれものがないか、たしかめてくれると、◇◇さんのはもっと良くなると思うけど。

(流れ④ 友達の考えのよさを生かす)

C：賛成！



アドバイスを生かして

.....

質問の内容を生かして具体的なアドバイスをしている子どもの意見を取り上げ、その考えのよさを子どもたちに伝えることで、互いの考えのよさを実感できる。それを受けて話し合うことで、他の子どもたちも具体的なアドバイスをすることができていた。

3 おわりに

低学年の時期から話題に沿って話し合うための力を育成することは、様々な学習の基礎となる国語の力を定着させることにつながる。今後も実践を重ね、向上の変容が見られる話し合い活動ができるよう、改善を試みたい。